

目 標

我々、いわき経済同友会会員は、企業経営者の異業種交流活動を通して、三つの目的を達成し、仲間の連帯を深め、地域経済の発展と活性化をはかり、夢と希望に満ちあふれた地域社会づくりをめざします。

SEA IWAKI

11月号／2009年11月1日発行

3つの目的

- 1つ よい会社をつくろう
- 2つ よい経営者になろう
- 3つ よい経営環境をつくろう

10月通常例会・第1回臨時総会

●日時 10月14日(水)P.M.6:30～ ●場所いわき建設会館

演題「企業経営とIT」～経営課題解決の道筋としてのIT～

講 師／NTT東日本B&O事業推進本部 オフィス営業部 販売推進部門部門長 川上 正氏



10月14日(木)午後6時より、10月通常例会及び第一回臨時総会が開催されました。

はじめに、山口副代表幹事の議長により、「平成22年度代表幹事選任」について審議を行いました。松崎副代表幹事より、選考の過程、考え方及び内容の説明があり、満場一致で承認されました。

引き続き、三室例会委員長の司会のもと、酒井政幸さんの3つの目的唱和の後、里見代表幹事の挨拶、各連絡報告事項と進められました。

里見代表幹事からは、我々を取り巻く環境は相変わらず厳しく、特に売上自体の伸び悩みが顕著であり経営者としての手腕が求められる。また、10月5日～8日の韓国研修旅行(太陽光発電所の視察、ソウル市内の河川再生)に触れられ、韓国では発電所の設置など国を挙げて太陽光発電の普及拡大に取り組んでおり、日本でも今後CO₂削減の課題と相俟って太陽光発電がクリーンエネルギーの柱になっていくこと、ソウル市は河川を復元することによって快適性・景観に根差した持続可能な街づくりを行っていること、そして海外研修といった異文化に触れ新たな視点を得ることも必要であること等の挨拶がありました。

また、三浦秀一さんから富山の企業が発行している「トレンドホット情報」の紹介があり、その後、10月の誕生日花プレゼントとして、佐藤敏雄顧問、酒井政幸さん、安田友紀さんに花鉢が贈られました。

例会並びに臨時総会終了後、株NTT東日本B&O事業推進本部の川上正氏より「企業経営とIT」について講演を頂きました。



左から安田友紀さん(10/27生)、酒井政幸さん(10/16生)、里見代表幹事、佐藤敏雄さん(10/9生)

「企業経営とIT」

～経営課題解決の道筋としてのIT～

講 師／NTT東日本B&O事業推進本部 オフィス営業部 販売推進部門部門長 川上 正氏

川上正氏より「企業経営とIT～経営課題の筋道としてのIT～」という内容でお話しを頂きました。

川上氏は、1966年東京都生まれ。1989年日本電信電話株式会社に入社後、通信機器事業部、法人営業部、経営企画部、サービス開発部などで担当課長、担当部長を務め、2006年から2008年までいわき支店長を務める。現在は販売推進部門長としてNTT東日本管内の中堅中小企業向け営業業務に携わっています。

1. イノベーション

川上氏は、「企業経営とIT」を読み解くキーワードとして、「イノベーション(技術革新、新機軸)」の説明から始められました。企業が発展していくには、時代に対応したイノベーションが不可欠で、イノベーションには2つのパターンがある。1つは「クローズドイノベーション」。これは一つの企業が自社内で技術力を駆使し高め、業務の流れや事業そのものに変革を起こすこと。全て自前で行う分、労力と容易さのハードルは高いが、成功すれば大きな効果をもたらし業界全体への普及にも及ぶ。一方「オープンイノベーション」は、業界内のみならず他業界の他企業との間で協業や分業を行い、事業変革に繋げること。自社は高収益なコアな事業に特化し付加価値を得意分野に集中し、他社の持つ技術やアイディアを取り込むことでより高い効果が期待できるとともに、新たなビジネスモデルへの転換など拡張性もある。パソコンのCPU(中央処理装置:PCの頭脳部分)を開発したインテル社などがその好例。

また、経産省主催の「中小企業IT経営力大賞(2009年度)」には、京都宇治市の「田中精工(株)URL: <http://www.tanakaseiko.co.jp/>」が受賞したが、同社などはまさにITを活用し事業モデルを革新的に変革させた代表的な企業である。同社の場合、製造品目の7割は協力会社に外注しており、製造過程で協力関係のある企業10社に同社のEDI(受発注システム)に参加してもらい、インターネット上にあたかも一つの生産ラインを構築しているかの状態を作り、実際のモノの流れと情報の流れを可視化し、売上拡大や業務効率化を図っている。一社に留まらず地元にある製造業各社のパートナー関係を構築し競争力を高めているという点では、まさにITを経営のイノベーション(オープンイノベーション)に活用しているモデル的な取り組みである。

2. 企業の考えるIT

その後、「企業がITに求めているものは何か」という



テーマに移られました。企業がIT投資で解決したい中期的な課題は、業務プロセス改革、経営トップによる迅速な業績把握と情報把握、経営の透明性確保のこと。特に業務プロセス改革では、改革を通じコスト削減や売上拡大といった直接的な効果を期待する企業が特にここ数年多くなって来ているとのこと。

また、リーマンショック以降、不景気を理由にIT投資を抑える企業があるものの、逆に、①セキュリティ意識の社会的高まりや②将来企業に求められる内部統制強化に対応するため、積極的にIT投資を拡大させている企業もある。①セキュリティ分野に重点を置くという企業では、企業ネットワークへの不正アクセスやなりすまし防止あるいは安全・安心な電子商取引の実現や顧客情報の保護に、②内部統制分野に重点を置くという企業では業務の可視化やステークホルダへの情報開示にIT活用の動機があるとのこと。

3. VPNのすすめ

さらに、ITの一つのサービスであるVPN(Virtual Private Network(仮想閉域網))：公衆回線をあたかも専用回線であるかのように利用できるサービス、専用回線を導入するよりコスト安)の説明、及びその導入事例3件の紹介がありました。売上拡大や顧客との関係強化、コスト抑制やセキュリティ強化といった導入の経緯や目指すところは異なりますが、いずれも、ITを駆使して何かしらの仕掛け・工夫を施し、仕事の仕方、情報の流れを変え、企業経営が発展的に変わっていくという点では共通であること。

また、まとめとして、ITはあくまでも企業経営の手段であり導入それ自体が目的ではない、厳しい経営環境だからこそその処方箋としてのITを考えることは企業経営にイノベーションをもたらし、持続可能な企業体质に変わっていくもの、といった示唆に富んだ講演でした。

10月グループ会報告

人材育成研究グループ会

■日 時 9月30日(水曜日)18:30~

■場 所 報徳苑

■内 容 以前、講演をいただきました平野秀典さんのお話しをもとに参加メンバー企業がお客様に対しどのような対応・取り組みを実施しているかを話し合いました。まず初めに小野委員長から講演内容の解説がありました。

・お客様がものやサービスを購入するときの「期待」と「実感」の比率がイコールであれば「満足」であるが101%のほんのちょっとした心配りや親切、情緒を加えた説明が「感動」を与え、その積み重ねが「感激」となり、さらに継続することで「感謝」されるファンが出来上がる。多くのファンを増やす取組をする。

内容をもとに参加メンバーより、各社で実施している取り組みや、「実感」した事例についてお話をいただきました。主な内容といたしましては、必ずお客様に掛ける言葉や朝礼で心がけていること、また、お役所仕事で怒りを覚えたことなど多くの事例を学ぶことができました。



経営品質向上グループ会

■日 時 10月28日(水曜日)13:30~15:00

■場 所 建設会館 5 F 会議室

■内 容 「新型インフルエンザの脅威と企業への影響」
講師：東京海上日動リスクコンサルティング(株)

小林主任

新型インフルエンザに免疫を持っていない為、季節に関係なく世界的規模に流行しています。

ウイルスが活性化しやすい秋冬にかけて、更なる多数の感染者が発生することが懸念されて、講師より、新型インフルエンザの脅威、新型インフルエンザに対応した事業継続計画(B C P)の必要性と事業継承戦略の考え方、新型インフルエンザ対応のB C P策定のポイント等の講義をしていただきました。從

業員本人・家族が感染した場合を想定し、どの様に事業継続対策をするかについての考え方及び具体的な対応を勉強しました。また、講師より配布説明をうけました「新型インフルエンザ対策マニュアル」は、大変参考となりました。

新型インフルエンザを含めた危機管理対策の重要性を再認識する講義でした。

経営戦略グループ会

■日 時 10月20日(火曜日) 9:00~

■場 所 サラブレットCC

■内 容 10月の第3グループ(経営戦略グループ)は、交流委員会と合同でゴルフコンペ開催。
優勝者 三室例会委員長

人材交流グループ会

■日 時 10月14日(水曜日) 19:00~

■場 所 建設会館 5 F (10月例会担当)

■内 容 講師として(株)NTT東日本B&O事業推進本部 オフィス営業推進部 部門長 川上 正氏をお招きし、企業経営とIT(～経営課題解決の道筋としてのIT～)について講演をいただきました。

企業活動の中で、ITの必要性と、ネットワークの重要性が高まっていることなどお話をいただきました。

いわきブランド研究会

■日 時 10月26日(月曜日) 12:00~

■場 所 久ノ浜 寿司徳

■内 容 前回講師としてお迎えした、いわき市漁業共同組合信担理事遠藤守俊氏の紹介により、地元久ノ浜の寿司徳にて地魚料理を食しながらの会合となりました。

食後、遠藤氏との意見交換に入り、地元久ノ浜漁港の現況説明がありました。

常磐沖は外海に面しており養殖には向かないことや、最近ウニなどによる磯やけの被害が増加していること等、近海の漁業を取り巻く環境が年々厳しくなっているようです。



先進地研修**韓国(ソウル・東大邱)4日**

実施日 10月5日(月)~10月8日(木)

義城太陽光発電所(プラント研修) 及び清渓川復元事業(中心市街地活性化研修)



**日
程**

- 10月5日 いわきー福島空港ーソウル仁川空港ーソウル
- 10月6日 ソウルー東大邱ー大邱ー東大邱ーソウル
KTX(新幹線)にて 義城太陽光発電所見学 KTX(新幹線)にて
- 10月7日 ソウル市内観光(世界遺産の宗廟・仁寺洞散策・南大市場 清渓川の歴史文化館見学)
- 10月8日 ソウルーソウル仁川空港ー福島空港ーいわき

いわきの交流人口を増加させる事業の一環として、二地域居住者用住宅と太陽光発電を組合せる試みから発展した経緯があります。その再生可能エネルギーとしての太陽光発電が注目され、いわき地区はその最適地と言われます。今後、家庭用のみならず、事業所用・発電所に対する助成も検討され、普及に拍車がかかると思います。

今回、太陽光発電先進地として、韓国・義城発電所実施および行政の取組を研修いたしました。

現地は、郊外の丘陵地の一部を造成し、太陽パネル(家庭用300棟分)を、太陽に向けて配置し、さらに最新型で効率的な稼働式に工夫されております。立地場所も、売電のため変電所に近いことが重要と認識されました。また、韓国の行政としての助成が重要な発展の原動力となっており義城発電所と同規模の1メガ規模の計画が、年間7~80基を3年後まで決定され活況

状況です。

同行の、コーディネーターの高了雲氏、メーカー(サントラック)のYong Seob Jung氏によりますと、韓国の助成による発展がヨーロッパ(スペインなど)への進出に繋がり、大きな進展の可能性を示唆しており、強い意欲を感じました。

市街地活性化のテーマでは

ソウル中心市街地の、清渓川復元の展示館研修。街中の川を埋め高架橋の道路とした地区を復元したものであります。中心市街地に清流を復元し、潤いと憩いの場所を創出し、各種イベントも工夫されて活性化の一助となっております。また、下流の漢江の水を環流・浄化し清渓川に注ぐ方式で、規模の壮大さに驚かされました。ヒートアイランド現象緩和にも効果ありとのこと。

いわき経済同友会 ご入会のお薦め

いわき市内の企業経営者ならどなたでも入会できます

- 会の趣旨に賛同される方は会員の推薦と所定の手続きによりどなたでも参加できます。
お問い合わせは下記へどうぞ。ご入会を心からお待ちしております。

発行 いわき経済同友会 里見 潤

編集 情報委員会 清水雅昭

委員 広報担当 岩尾英子・高萩和義・中田博道・山崎勇喜 HP担当 坂本和久・阿部晴康

事務局 〒970-8026 いわき市平字童子町4番地-18 いわき建設会館4F
TEL 0246-23-1200 FAX 0246-23-1211
<http://www.seaiwaki.jp>
E-mail:doyukai@triton.ocn.ne.jp